加茂川中学校だより2018

子どもを共に育む
京都市民憲章
京都はぐくみ憲章
社会のあらゆる場で実践し、行動の輪を広げましょう！

京都市立加茂川中学校
平成31年2月22日(金)
第14号　絆・つながり
文責：校長　太田勝

1組　冬の宿泊体験学習

１組は２月１４日・１５日に花背山の家で行われた「冬の宿泊体験学習」に参加しました。当日は加茂川中学校付近でも小雪が少し舞うような天候でした。おかげで、花背には新雪が積もる最高のコンディションとなりました。２７校の学校が参加していましたので、とてもたくさんの仲間と２日間を過ごすことができました。

１日目は到着後に入所式を行い、そのあとみんなでお弁当を食べました。午後は「ソリ遊び」です。新雪の上を滑る楽しさに、何度も何度も繰り返しました。活動後はお風呂に入って暖まってから夕食を食べました。よく動いたのでお腹はぺこぺこでした。夕食後の交流会では「クイズ」や「みんなの心はひとつだゲーム」・「ビンゴゲーム」などで楽しみました。２日目の朝の集いでは加茂川中学校が進行を担当しました。２日目もいい天気に恵まれ、「歩くスキー」にもチャレンジしました。あっという間の２日間でした。

2年生　沖縄講演会

２年生は２月６日に、修学旅行の事前学習として「沖縄講演会」を実施しました。５月に実施する修学旅行では「民泊」を予定しており、沖縄の人たちとの交流を深めます。講演会では沖縄から来ていただいた観光協会の方からスライドを見ながら説明を聞きました。沖縄の言葉「はいさい」ではじまり、地理や歴史、自然や文化について学びました。修学旅行が実施される５月の平均気温は２４度程度だそうです。本州の「春夏秋冬」という四季ではなく、季節は「夏夏夏冬」というイメージだと説明されていました。

1年生　ふれあいトーク

１年生は２月１３日に「ふれあいトーク」を体育館で行いました。地域の方や各種団体のみなさん、大学生など７０名をこえる大人の方にお集まりいただき、中学生と共にみんなで会話を楽しみました。「こんなふうに話ができて、この地域でよかった」や「普段しゃべる機会のなかった大人の人とも話ができて楽しかった」「中学生がしっかりと考えていることに驚いた」など、大人・中学生それぞれからの感想でした。

和やかで素敵な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

【中学生の感想より】

◆地域の方には様々な年齢層の方がいらっしゃって、戦争中のつらい思い出や、中学時代の部活動の話など、ためになる話や面白い話を聞かせていただいて、時間が短く感じるほど有意義な時間でした。
◆大切な話をしていただいたのでよかったなと思います。自分は活発な話はしていなかったけれど、心の中ではうなずきながら聞いていました。
◆大人の方からお話をいただいて、将来のためになる勇気づけられる言葉をいただきました。とてもこれからのためになりました。いつかまた会う日があったら、あいさつもしていきたいです。
◆戦後、学校に通えなかったり、自分で勉強するしかなかったという苦労の経験を聞けたり、先輩として教えてくださったのでとてもよかった。大人の人とこんなに楽しく話せたのは初めてかもしれません。

3年生　応援しています！

京阪神地域の私学入試や公立前期選抜も終わり、次は公立中期選抜です。これから希望する学校を受検する仲間がたくさんいます。３年生１５０名全員が笑顔で卒業式が迎えられるように、全員で支え合って助けていける、そんな集団となるように、先生達も応援しています！

生徒会　ラジオMIX　生放送

２月４日には、生徒会の３名が北大路にある「ラジオMIX京都」のスタジオから生放送をしてくれました。打ち合わせのときは緊張もしていましたが、いざスタジオに入り「本番」となると、紫風祭のことや部活動が盛んなことなど、しっかりとPRしてくれました。

くらしの達人　入選作品集

３年生の家庭科では、生徒が消費生活について自ら考え、行動することを顧って標語づくりに取り組みました。テーマは「上手な買い物」や「おいしい食事のために」です。

◆大人買い　それって実は　子供買い
【コメント】よく「大人買い」という言葉を聞きますが、その買い方は買った後にその物を捨てたりしてしまうことが多く、「大人」という言葉はふさわしくないのではと思ったため、「子供買い」という言葉にしました。

◆ありがとう　おいしかったと　伝える勇気
【コメント】いつも当たり前のように、おいしいと思って食べているお弁当。「ありがとう」と言うのは恥ずかしくて嫌だったけれど、中学３年生になって、毎日作ってくれる母の姿を見て、伝えることは大事だと思って作りました。

◆〝おいしい〟は　魔法の言葉　みな笑顔
【コメント】中学生になって家族で団らんをする機会が減り、会話も減ってきた。そんなときに父が「〝おいしい！おいしい！〟って口に出したら、おいしいごはんはもっとおいしくなって、お母さんも笑顔になる！」って言っていたことから作りました。

親子の日　絆コンクール

普段、感謝していても「ありがとう」の言葉が出てこなかったり、素直になれなかったりする中学生。
国語科では「親子の日　絆コンクール」に参加しました。作文からは、気恥ずかしくて日頃は口に出せない中学生の思いが表現されています。【生徒作文の一部を抜粋して紹介します】

「トントントン、トントントン」聞き慣れた音と共に我が家の長男が目覚める。母の朝食を作る音、焼きたてのパンの香り・・・。いつもの朝の光景だ。ん、今話している私は誰だって？「申し遅れました。私はこの家の『ぬいぐるみ』でございます。」長年この家で家族を見守り、見つめてきた者として「家族とは何か。家族の絆とは何か」ということを考えていきたいと思いペンをとりました。（中略）

母は黙々と朝食とお弁当の用意を進めている。そうしているうちに三人の子ども達が起きてくる。母の「早くしなさい」というげきが飛ぶ。他にも「忘れ物はないか。」など、朝の母は怒っているように感じるが、三人が家を出るときは、さわやかに元気よく「行ってらっしゃい、気をつけて」と気持ちよく送り出している。この日もいつものように送り出し、仕事に出かけるまでの間に掃除や洗濯をするのだが、今日は違った。送り出した途端に私（ぬいぐるみ）を抱きしめ、ソファーに倒れ込んだ。実は母は昨夜から風邪をこじらせ高熱が出ているのだ。それでもいつもとかわらず家事をこなし、子ども達を気持ちよく送り出していた。（中略）

どんな時でもいつも母がいてくれたことは、ここの長男は分かっている。そんな長男の優しさに、母も気づいているのだ。お互い言葉にしなくても伝わるのだ。

「親」。私を産んでくれた、私の食事を作ってくれる、私のために仕事をしてくれる。けど、なぜか「うざい」と思ってしまう時がある。「宿題した？」「部屋片付けなさい」など言われると、「うざい」と思ってしまう。これを「反抗期」と言うのだろうか？（中略）以前、母と父が「自分が親になって、親のありがたみがよく分かった」と言っていた。母も父も、私と弟のことを最優先に考えている。私は私のことを最優先に考えている。今の「私」と「親」の違いはそこだと思う。（中略）母や父は私のことを心配して色々言ってくれているのだろうと、少しずつだが気づきはじめた。お母さん、お父さん、もう少し時間をください。いつの日か、私も大人になり、親になります。そして、今のお母さんとお父さんのように、子どものことを最優先した考え方で生活をすると思います。その時にはお母さんとお父さんのことを思い出して、お母さんとお父さんのような親になろうと思います。

加茂川中学校は「絆コンクール」に優秀な作品を多数出品したことで「感謝状」をいただきました。